

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

題字の背景画像は rongorongongo の文様から作成したものです

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

東日本大震災

3月11日(金)午後2時46分、宮城県三陸沖を震源とし、東北をはじめ、関東圏をふくむ広範囲で大きな地震が発生しました。最大震度7、マグニチュード9.4。ここ茨城でも最大震度6強を記録しました。

編集部員の私達は、大学でこのロンゴロンゴ4月号を作成しているところ、震災にあいました。そのため、今回は7月号に4月号を合わせて、ページを増刷してお届けします。発刊が遅くなり、申し訳ございませんでした。

震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。また被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

津波や放射能の被害で、今までの日常生活を取り戻せていない方々はたくさんいます。

学生である私達、若い世代が奮起し、皆で力を合わせて、復興に向け頑張っていきましょう。

ロンゴロンゴ編集部一同

新校舎完成!



今年度から文学部文化交流学科などの校舎が新しくなりました。とても綺麗になった校舎の感想を学科の学生に聞いてみました。

- ・どの教室にもプロジェクターがあつて、プライベートも日の光が入らなくていい。授業が聞きやすくなった。
- ・建物のデザインが気に入っている。特に石段の所が良いと思う。
- ・清潔感があつて、広くて使いやすい。
- ・教室が広く開放感がある。
- ・ガラス張りなので光が多く入ってきて明るくてよい。
- ・ビューラウンジからの景色がキレイ。
- ・ラウンジが広くなり、人が出入りしやすくなった。
- ・トイレが綺麗で冷暖房が細かく調整できるところが良い。

新入生交流会

今年度から「入学記念行事」ではなく、「新入生交流会」に名前を改めました。5月12日に11号館ラウンジで行われ、外国人の方々や留学生と一緒に、ゼミ単位で文化交流やゲームを楽しんだようです。学生の感想を紹介します。

文化交流の一步が踏み出せた

◆タジキスタン出身のズバイドロさんと交流することができました。タジキスタンについて、名前すら聞いたことがなかったです。

ただ、残念ながら自分の国のことを全然と云っていいほど、紹介できませんでした。他の国の文化を知るだけでなく、自

【5面へ続く】



【交流会の風景】

- ◆ 1面 新校舎完成
- ◆ 1、5面 入学生交流会
- ◆ 2、4面 学科教員紹介
- ◆ 6、10面 文化交流体験感想
- ◆ 7面 ベトナム人留学生インタビュー
- ◆ 8、9面 森謙二先生インタビュー
- ◆ 10、11面 韓国長期留学感想
- ◆ 12面 キャリア支援センター
- ◆ 本紹介
- ◆ 編集部員募集
- ◆ 編集後記

11年7月号目次

文化交流学科 教員自己紹介

学校が始まってから2ヶ月が経ちましたが、みなさん授業はどうでしょうか。今年度から宮崎先生も加わり、主な学習の場が11号館となり、新・文化交流学科となりました。そんな文化交流学科の先生方に自己紹介、好きな国の紹介をしてもらいました。

宮崎 晶子先生

今年度より茨城キリスト教大学で教壇に立つことになりました宮崎晶子と申します。専門は東南アジア美術史で、特にカンボジアの美術を研究しています。



出身は東京都板橋区で、大学は石川県の国立金沢大学です。フランス文学を専攻し、4年間サークルで能(宝生流)を習っていました。大学院から上智大学に入り、修士・博士号を取得しました。最近は大忙しく、能のお稽古に行けないのが悩みです。気分がいい時は、霞ヶ浦に向かって謡っています。研究対象が仏像なので、仏像の近くにいると楽しくなります。



さて、私が茨城キリスト教大学に来てから2ヶ月がたちました。大学の第一印象は、緑がたくさんあるきれいな大学だな、ということでした。震災の影響で授業の開始が遅れてしまったのは残念でしたが、4月には染井吉野や八重桜などいろいろな花が咲いて、今年の桜は心配事も忘れてしまいうほどきれいだったことを覚えていきます。大学が始まると個人的な学生たちに囲まれ、

あつという間に1ヵ月が過ぎてしまいました。元気がいっぱい好奇心の強い学生たちに刺激され、あれもこれも教えてあげたいと思っているうちに日々が過ぎてしまいました。学生の長所・短所もさまざまで、対応に追われる毎日を送っているというのが正直なところで、授業では最後にリアク

好きな国は、専門というところもありカンボジアです。アンコールワットや地雷のイメージが強いカンボ

ジアですが、そのほかにもたくさんの方に溢れています。日本とテンポが違うところもあります。お仕事しながら一緒にやカンボジア、ヴェトナムに行く講義もありますので、学生の皆さんと一緒に行けたらな、と思います。

私が学生だったころと比べ、義務教育や高校での教育が大きく変化しています。同時に大学での講義の在り方もより良い授業に向けた変革が始まっています。今後は、私の専門である「東南アジア」を中心に、学会などで高校の先生方と一緒に歴史教育の在り方を考えていきたいと思っています。

シヨンペーパーを書いてもらっています。説明の足りなかったところや、学生が十分に理解できていないところを確認して、次の授業に役立てたりしています。

瀧野 修先生



大学ではドイツ文学を専攻しました。現在は音楽や絵画などを含め、広くヨーロッパの文化を研究対象としています。ドイツ語の学習を始めたのは、高校2年のとき。第2外国語の履修が必修であった、当時から今も珍

しい高校に入学した私は、独・仏・露・中の選択肢の中から迷わずドイツ語を選びました。中学2年で初めてバッハの壮麗な音楽と出会い、彼を生んだドイツという国の文化や歴史に興味を持っていったからです。そして高校3年のときには第1外国語をドイツ語に変更し、大学受験の際も英語ではなく、ドイツ語で受験しました。



11号館4階の研究室。訪れると良いアドバイスがもらえるかもしれません……

す。なかでも第2次世界大戦後、政治・経済体制の違いからその復興が遅れていた旧東ドイツ地域には、これまで何度となく足を運んでいます。今なお古き時代のドイツの面影を多く残すこの地方では、「過ぎ去りし時間」の豊かさや重みをいつも感じさせられます。

猿田知之先生



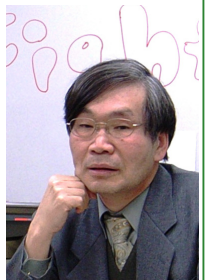
皆さん、こんにちは。日本語学・言語学・言語教育などを担当するサルタです。人好きする要素の少ない学問分野ですが、できるだけ言語研究の面白さと楽しさを、講義の中で伝えたいと思っております。

アフリカのスワヒリ語と日本語の比較研究をしてみませんか。

好きな国は、日本。

森謙二先生

この10年、沖縄が研究対象になっていく。沖縄に行くたびに思うのが、沖縄には二つの顔がある。一つは、風光明媚な海と優しい人間がいる風景である。もう一つは、戦争の傷跡を残し多くの米軍基地をかかえた風景である。沖縄が本土復帰を果たすのは昭和47年である。その前後から、本土資本は沖縄の土地を離島の隅々に至るまで買い占めていった。離島のあ



争なんて勉強してどうなるのって思うでしょう？でも、今起こっていることは一面的にしか分からないけど過去のことなら多面的かつ冷静に説明していけます。人の世はどのようなことをしてきたのか、しでかしかねないのか。歴史の中で人はいかに生かされ、動かされてきたのか。戦争という極端な事例を取り上げると、そんなことが良く分かってきます。歴史の勉強は過去を裁くた

斎藤聖二先生



態度をとった。「できっこない」という態度をとった新聞社は、沖縄における土地の買い占めを知っているのであらうか。沖縄を見る時は、「基地反対」だけを見るのではなく、その全体を見なければならぬ。こんなことを思いながら、今年も「沖縄通い」を続けるだろう。

好きな国はウィーン、オーストリアの首都である。はじめてヨーロッパに行った時、イタリアのベニスから夜行列車でウィーンに着いた。イタリアの喧嘩から落ち着いた街並みのウィーンに着し、「ほつ」としたことを今でも覚えている。平成2年、ベルリンの壁が崩壊した翌年、1年間でいくつかある「故郷」の一つである。

和泉涼一先生

専門は文学の理論、とくにフランス系の領域を中心にしています。この大学では、ゼミのほかにフランス語と表象文化論、文学などを担当しています。出不精なのでイヌと散歩するのがせいぜいの日々ですが、なんとか時間とお金を都合し、年に一度はパリに出かけたいものと願っています。



好きな国はフランスです。西欧はどこもそうでしょうが、とくにフランスでは、多様で自由なライフスタイルがごく自然に許容されているように思います。徹底した個人主義であるのはちよつと疲れますが、それは自由の対価なのでしょうね。

岩間信之先生



皆さんこんにちは。文化交流学科の岩間です。専門は地理学で、本学では人文地理学、自然地理学

学、観光学などの授業を受け持っています。地域の活性化にも携わっています。毎年夏には、地元の方々や本学の学生たちとともに、河原子海岸で夏のイベントを開催しています。砂浜に全長5m以上の砂の彫刻群を作ったり、劇場型火花を打ち上げたり、ダンスやバンドなどのステージを設けたり。今年も開催します。ぜひ一緒に暑い夏を過ごしましょう。

また、東南アジアを周遊する「東南アジア大回廊計画」にも参加させてもらっています。貧乏旅行をしながら東南アジア各国を巡り、現地の大学や孤児院などと交流関係を築きながら、東南アジアと日本を結ぶ架け橋を築こうというプロジェクトです。毎年たくさんの方が参加しています。ぜひみなさんも、一度は東南アジアの貧乏旅行を満喫してみてください。

私の好きな国は、イギリスと東南アジア（特にカンボジア・ベトナム）です。イギリスには学生時代に留学しました。東

南アジアはここ数年毎年訪れています。すっかり病みつきになりました。

志賀 市子先生



私は中国の宗教研究を専門にしている、授業では文化人類学、中国の歴史と文化、中国語などを担当しています。中国にはどんな宗教があるのか、どんなお祭りをやっているのか、どんなおまじないや占いがあ

るのか、もし興味があったら私の講義やゼミをとるか、あるいは研究室に遊びに来てください。私の研究室には邪気を払う「風水鏡」や彼女、彼氏が見つかるおふだなど、もろもろの（あやしい）中国呪術グッズがありますので、試してみたいと思います（当たるかどうかは保証の限りではありません）。

調査のためにほとんど毎年のように行っている中国は、好きな国というよりは、仕事相手という感じです。最近ほとんど時間がなくて、完全に私的な目的で旅行する機会がほとんどなくなりました。いつか、まったく仕事抜きで、タイやマレーシアのリゾート地でのんびり過ごしてみたいと思っていますが、そんな日々が私に訪れることがあるのでしょうか（いや、ないだろうと、なんとなく確信しています）。

堀口 悟先生



専門は、日本の伝統文化です。特に、最近では香道の研究と普及（情報発信）に力を入れていまして。香道は、500年以上も続く伝統文化でありながら、まだ余り一般に普及していませんし、研

細谷 瑞枝先生



みなさん、ようこそ文化交流学科へ。専門は、ドイツ文学と昔話研究。文化交流科の教務委員ですから、授業の取り方などで分からないことがあったら聞いてください。

自己紹介がわりに去年をふりかえって。まずGWにドイツへ。アイスランドの火山爆発（そんな

こと、ありましたよね）で前日まで欧州便欠航。が、私の出発日から運行再開！ 旅行運はたぶんかなり強い！

と想像したら、6月の中国行きは現地の悪天候で欠航。「出国」のスタン

究も未開拓な部分が多くて、新しい分野でもあります。そして、嗅覚を中心とした、日本が世界に誇れるユニークな文化だ

「ブッダ」？「かつぱ」？



雪にも負けず、無事ドイツ到着。夏のフランスに味を占めて、スペインに進出。英語よりドイツ語の方が得意というスペイン人のガイドさんと盛り上がる。やつぱり、ドイツ語よね〜♪

というわけで好きな国は、ドイツ。紹介は、またいつか。

趣味はスポーツ全般、音楽はギター、鉄道模型

藤田 悟先生



学部時代は、経済学科と教育学部に在籍、大学院では確か、言語学専攻でしたが、言語教育、比較文化、比較教育といった分野に関心が流れなが

て、年末。欧州の大

震災で提携校からの交換留学生が（無理もありませんが）軒並みキャンセルとなり、非常に残念。

からマージャンまでと何でもやります。

夏のカンボジアボランティア活動は今年で8年目、そろそろ年貢の納め時かなと思っています。

好きな国？ あまり国単位で物事を考えないようになってきているので答えにくいのですが、震災後の現時点では、やはり「日本」という義務があるかなあという気がします。

これまで「豊かな日本」の恩恵を受けてきているので、ここで逃げるわけにも行かないでしょう。

最近では韓国の俗曲にはまっています。

染谷 智幸先生



よく言えば多趣味、別の言い方をすれば何でも中途半端です。

好きな国はやはり韓国ですね。日本と隣ですぐ近くですが違った部分がたくさんあります。

韓国ドラマにはまる人も多分同じ観点からだ

思います。

みなさんも韓国に興味をもってください。

【1面から続き】

国のことももっと知って
もらえよう、努力して
いきたいと思えます。

勉強のきっかけに

◆私はガボンについてフ
レディさんに色々なこと
をうかがいました。私は
その内容よりもフレディ
さんとあまり言葉が通じ
なかったことに衝撃をう
けました。フレディさん
の公用語はフランス語で
すが英語も話せます。英
語なら少しはわかるだろ
うと思っただけわからな
くて先生に翻訳してもら
いました。それがとても
悔しくて、今高校受験の
時よりも真面目に英語を
勉強しています。言葉が
伝わればもう少し詳しく
お話も聞けたらどうとも
思います。



交流会があつてよ かった

◆交流会に参加して思っ
たのは参加してくれた
方々が非常にフレンド
リーだなということだ
です。会食の場で積極的
に文化のなどを聞きに
いきましたが、どの人も
母国の話をするときは穏
やかな顔をしていたよう
でした。日本で普通に生
活して過ごしていたら出
会えていなかったのかも
しれない人と話ができて
よかったです。

日本についても考 える機会

◆交流会があつて本当に
よかったです。それは友
人は友人と仲を深めるこ
とができ、何より自分の
住んでいる国以外の方の
考えや生活を知ることが
出来たからです。
特に印象に残ったこと
は中国からの留学生の方
のパワーポイントを使っ
た発表でした。食に関す
ることはとてもシヨッキ
ングなことでしたが、そ
れを発表することの勇氣

はすごいと思えました。
私達の住む日本では、
食の安全は水と同じよう
に保証されているもので
す。日本がどんなに恵ま
れているのかを実感しま
した。自分がどんなに幸
せか、裕福かと思うこと
ができるよい機会です。
た。



文化を語る

◆いろんな国の人達と交
流し、国によってさまざ
まな文化があつてとても
勉強になったし、なか
かいろんな国の人と交流
ができないのでとてもい
い体験ができてうれし
かったです。
今度は交流する前にい
ろんな国の文化を勉強し
てお互いの国の文化につ
いて語りたいです。

理解しようとして くれた

◆中国人の方とお話し
しました。きつと向こうから
見たらすごく変わったよ
うに見えると思います。
(日本人ばかりだから)
必死に私達の言葉を理
解しようとして辞書を引
いてくれたりしました。
こつちもうまく伝わらな
かったりしているいろい
ろ大変だったけれどいい
体験ができました。

中国の教育

◆中国人留学生の男の子
が中国の教育がよくない
ことを必死に伝えよう
としていたことが印象に
残っている。そこまでそ



のことを伝えたかったの
かと気圧された。
クイズとかの得点で、
お菓子をたくさんもらえ
たのは嬉しかった。お昼
の残りを持ち帰ることが
出来たのはエコになつた
な、と思った。

もっと学びたい

◆それまで外国人と触れ
合うことのなかった私に
とって、文化交流体験は
自分の価値観となる体験
となった。自分が今いる
コミュニティはあまりに
もせまいと感じさせられ
た。

不安だったけど

◆最初は、ろくに英語も
話せないのに、他の国の
人々と交流ができるの
かとても不安でした。で
も、実際交流してみたら、
ジェスチャーとかで、な
んとか通じあうことがで
きた。
チャンちゃんとビー
ちゃんとランさんと友達

になることができて、と
てもうれしかった。



色々な国と交流

◆私は、元々いろいろな
国から来た人と関わるこ
とが好きである。だから
この集まりは私にとって
とても興味深かった。苦
手だと思っていた中国人
とすごく仲よくなれた
り、全く知らないと思っ
ていたタジキスタンやガ
ボン、カンボジアやベト
ナムなど少しコミュニ
ケーションをとるだけで
その国のことを知れたよ
うな気がしてとても嬉し
くなった。すごく楽しい
企画だった。

細谷ゼミ初勝利

◆グループでプレゼン
テーションをしたり、
ゲームで遊ぶのは楽し

かったです。それに、と
ても良い経験になりました。
今まで優勝したこと
のない細谷ゼミが勝った
ことに細谷先生も喜んで
いました。学生間だけで
なく、教授とのコミュニ
ケーションがとれる機会
を増やして欲しいと思
います。

食文化の違い

◆交流会では普段話をす
る機会のない中国の方と
話をさせていただきまし
た。自分たちが聞いた質
問の他にも、日本と中
国での食文化の違いから
色々なことを教えてくれ
ました。他のグループの
留学生とも食事の時、話
をすることができて本当
によい経験になりました。
た。



文化交流体験

行ってきました！ベトナム・カンボジア！



2月9日から21日まで、「文化交流体験」を履修する学生達が、ベトナム・カンボジアに行ってきました。その中の2名に感想を頂きました。

【左の写真 渡辺君と現地の子供達】

最低限の言葉

文化交流学科4年次 渡辺 宣

何でも知りたい

今回私は文化交流体験の授業でベトナムとカンボジアに行った。滞在の目標は向こうの文化を知ることだ。目標をおおざっぱにしたのは、なんでも知りたかったからだ。初日から現地の人と話

をすることができた。ベトナムのホーチミン市で商売をやっている人は朝から夜まで営業をしている。初日の夜にホテル周辺の公園にいったのだが、自分より5歳も若い女の子が親の商売の手伝いをしていて。その子は自分よりも流暢な英語を話したり、多少日本語も話していた。お互い簡単な英語で話せたので、考えを伝えることはさほど難しくなかった。この子はホーチミンの事を教えてくれたり、弟くんや妹さんと写真を撮らせてくれたりとてもフレンドリーだった。

カンボジアに滞在している中で印象に残っているのは、孤児院の子どもたちだ。彼たちは様々な事情で親と離れてここに来ていて。親からの愛情を受けていない子たちにとって、施設の管理人の方や訪問者が親の代わりとなる。子どもたちは自

ら駆け寄ってきてくれて、サツカーをしようだとか、キャッチボールをしようと言ってくれた。言葉が上手く伝わらない時もあったが、遊びたいことがはっきりしていたので会話はさほど必要なかった。

二つの国で生活をしていて、いろんな人と会話をして困ったこともたくさんあった。現地の人と会話

自分の意志を教えるだけでいい

二つの国で生活をしていて、いろんな人と会話をして困ったこともたくさんあった。現地の人と会話

が進みそうにないが、余計な言葉も使わないので考えが素直に伝わる気がした。また来年にどちらかの国に行こうと思つていて。最低限の言葉だけでお互いの意志が通じることも楽しいという感覚をもっと体験したいからだ。

世界って広い！

文化交流学科3年次 鈴木真紀子

思いっきり楽しむこと

この授業に必要なのはパスポートとリュックサック。教科書でもノートでもない。大切なのは旅をおもいっきり楽しむこと。携帯をいじる時間

も、インターネットを開く時間も作れないくらい楽しむこと。そして、現地の人と同じご飯を食べ、同じように歩き、同じような時間を過ごすこと。

私にとって今回の文化交流体験は三度目のベトナム、二度目のカンボジアだった。だから正直、最初に行った時の感動はなかった。けれど、だからこ他の人とは違った視点で二つの国を見るこ



シンチャオ!

ベトナムからの留学生

今年、初めてベトナムのフフリット大学から2名の長期留学生在がやってきました!

今回は、そのお二人に、日本の印象やベトナムでの生活などのインタビューをしました。

Q 自己紹介をお願いします。

下・ヅ) チ・私の名前は「チャン」といいます。ヴィさんと同じ、4年生です。宜しくお願いします。(以下、チ)

Q 住んでいる場所はどんなところ?

下・ベトナムのホーチミン市です。バイクがいっぱい道が混んでます。私達もバイクに乗ってます。朝と夕方は渋滞になってしまいます。チ・ベトナムは暖かい場所、日本は寒い!

Q なぜ日本に来たの?

下・日本語を勉強し始めたら日本が好きになったから。日本のアニメ、ドラえもん、ワンピースが好きです。チ・日本のテレビを見て、桜の木の下でデートをしている映像がとても素敵だったから。日本の映画も良く見ます。日本語の発音も綺麗だと思います!

Q 授業は楽しい?

下・楽しい! けど、新しい言葉や専門用語が出てきて難しいです。でも先生や学生が優しく感謝しています。チ・これから日本で勉強したいことは?

Q 日本人に紹介したいベトナムの文化は?

下・お正月のお菓子! お米で作ったもので、ベトナムの伝統的な料理です。四角形と丸い形の二種類あって、四角形は中に肉やニンジン、ニンニクが入っていて、塩辛いです。四角は土地を意味していて、土地への感謝を表しています。丸い形は中身はなく、甘いです。丸は空の意味で、空気、太陽への感謝を表しています。お正月には親戚もみんな集まって寝ないで作ります! すごく楽しい行事です。チ・あと12時ちようどに花火が上がるのでそれを

Q 最後に文化交流学科の学生にメッセージをお願いします。

下・日本人の学生は明るくて親切です! でもあまり熱心じゃないですね... 私達にたくさん日本のことを教えてくださーい!



左がヴィさん、右がチャンさん。二人とも明るく、笑顔がとても可愛かったです。

Q ベトナムで好きな食べ物は何?

下・ベトナム中部の辛い食べ物が好きです。日本にいたると、ベトナムのご飯が食べたくありません! 日本は焼きそば、お寿司が好き。チ・ベトナムで好きな食べ物、揚げ春巻きと

Q 自分達で生活しているの?

下・同じ場所にホームステイしていて、お母さんのお手伝いもしています。チ・お父さんはすごく優しいです。西山荘に一緒

Q 将来の夢は?

下・日本で働きたい! チ・日本の会社で働きたいけど、ベトナムにいたい。ベトナムにも日本の会社がたくさんあるからそこで働いて、出張で日

Q 学生の印象は?

下・ベトナムは男女一緒にグループでいるのに、日本は男女がバラバラに過ごしていて驚きました。チ・洋服とか、みんなそれぞれスタイルをしていて綺麗です!

Q 学生のお寺や教会に行きます。

お二人とも日本語が上手で、日本のことをよく知っていました。学生の皆さんもベトナムのことを知るよいきっかけになるので、ヴィさん、チャンさんと仲良く文化交流してみてもいいでしょうか。



本にきたい!

森謙一先生ロングインタビュー

前篇

編集部員が「社会学」「比較宗教論」などを担当されている森先生にインタビューをしました。(文責：編集部)

—森先生の専門分野を教えてください。

法律と社会学、法律の一分野なのか社会学の一分野なのか争いはある。僕は元々は法学部の出身なんだけれども、どちらかといえば社会学に近いかな。ある段階から民俗学とか、近代の社会史とかにも手を出し始めてきて、そのあたりが専門的かな。

—先生は授業の中でお墓について紹介してますが、なんでお墓に興味を持ったんですか。

お墓の中に社会が見える、いろいろな意味で、社会の仕組みがお墓の中に表現されている、というところかな。今から25年、30年位前に、学生を連れて初めて里美村(現・常陸太田市)に調査に行ったとき、その地域のお墓を見たとき、本家の墓が真ん中にある



り、分家の墓がその周囲に、奉公人の墓がその外側にあるというお墓を見て、「え、こんなのか」と思っただけで、その時に、茨城の北部の地域がどんなものなのか、その時の地域がどんなものなのか少し分かった気になったのが、お墓に取り組みきっかけになった。他にも、夫婦別姓の墓を見つけたり、神道系のお墓を見たり興味尽きなかったですね。それが昭和53年か54年のとき、それくらい

の検討会(「墓地等について考える懇談会)があるから参加していただきと言われて深みにはまっていた。それまでは行政には関心がなかったんだけど、そこから行政にも関わるようになって。その頃は、お墓を研究してる人ってほとんどいなかった。結構いろんな人が注目してくれて。それ以降、テレビの出演依頼などが続いて、ここまでできたらちゃんとやろうって思っただけで、今までは、お墓のことはやらないとか、家に放っておく人がたくさんいた。それが、民俗とか宗教上の問題であるとか、そういう分野から入ってきた人が多いいんだけど、僕

はまったく違うところからやり始めた。たぶん日本では初めてじゃないかな。そういう形で本を書いたのも、それまでは、考古学もお墓を対象としていたけど。そんなこともあって、他の分野の友達・知り合いもできたり、研究の輪は広がった。今はやつとね、色々な人がお墓のことをやり始めて、社会学でもやる人が何人かできてきて、少しは良かったかなって思うけどね。

—今このことをいうと、散骨とかが問題になってきているでしょ。法務省が散骨は違法ではないと平成2年くらいから言い始めていた。最初は「これでもいいかな」と思っていたんだけど、最近、葬式をあげないとか、葬らないとか、家に放っておく人がたくさん出てきたじゃない。あれはマズイかなって思っただけで、今年中には新しい

本がますます。物議をかもしだすかもしれないけれど。「埋葬」しない人がたくさんいるでしょう。あれは何ですかね。お金がないからって親の葬式をやらないってことあり得る？あと、もうひとつは親の年金が欲しいからって。事件もあったけど、あれも考えられないよね。元々、人間の道徳・倫理の基礎っていうのは、生きる、死ぬとかそういうところで色々な問題がでてくるんだけど、そのあたりを一回整理したいな、と思ってる。本がでると思うからその反応を楽しみにしつつ、片方では思いな、と思いたいかな。お墓ばかりやってるってイメージある？

—まさかお墓扱っている先生がいるとは思わなくて、そのイメージが強いです。

いろいろな意味で、社会の仕組みが

お墓の中に表現されている

でも墓はおもしろいよ。どこに行ってもある。世界中。でね、変な言い方だけでも、お墓を見に行くって言うとなんか納

最近、面白そうだと思ってるのは

「お茶」だね。なかなか奥が深い。

得するんだ。普通だったら、中国を扱っている人がヨーロッパ行くと行って言われるでしょ。でも僕が墓を見に行くって言うところでもみんな納得する。去年の夏にイタリアへ行ったんだけど、なんでイタリアに行くんだって言われたから、墓を見に行くって言ったんだ。実際にイタリアのシシリアまで行ってミイラを見てきたよ。世界中行ったよ。中国や韓国もよく行ったね。

—これからお墓を見に行きたい国はありますか？

そうだね、南米に行つたことないかな。南米はスペイン系だからね。スペイン系は地下室埋葬なんです。ヨーロッパのアルプスを境にして、その南側つてのは、墓を土葬するって言うんだけど、土に埋めない。要するに、地下室みたいなものをつくる。空間の中に置くっていう。その典型的なものにはミイラとかね。ミイラを地下室

に置くとかあるし、いろんなバリエーションがある。他国と比べて日本の特徴はありますか？

日本の特徴は、墓参りをしない。世界で1位、2位を争うぐらい墓参りをしない。インドはまあ、捨ててしまつたら終わりだからお墓参りはないんだけど。日本の中で調査をしていてね、昔、学生をつれて行ったんだけど、全部書きだしてたの。学生は嫌がりながらもやっていったんだけど、そこで人に会うつてことはま

ずない。ヨーロッパに行つて、一度お墓で写真を撮つていたら、追いかけるられたことがある。一見、ヨーロッパの人は祖先崇拜みたいなものを持ってないからお墓参り行かないかと思つてるかもしれないけれど、日本みたいにお盆やお彼岸みたい

な日があつて、11月1日、万聖節というのがあつて、その日は銀座よりも混んでる。もう動けないくらい。

また、ラトビアにも数カ月行つて調査やりたいくらい面白い。あと北欧も面白いですよ。北欧から東欧にかけてすごく面白い。スウェーデンは、「進歩的」な国に見えるけど、私の目から見ると、すごく保守的、あんなに保守的なところはないと思ふくらい保守的と思ふ。で、彼らに、「進歩的」な国だと言つたらね、彼らは、「我々は、日本と同じようなかたちで皇室を持つている。皇室を国はない」と言つていた。で、なんで我々日本人から見るとスウェーデンが「進歩的」に見えるかつていうと、スウェーデンでは家族がもうほとんど解体しているんですよ。「家族の個人化」はすこ

く進んでいる。でも、その代わりに地域共同体が残っている。地域共同体が家族と同じ役割をしているんだよ。だから家族は非常に個人化しているけれど、地域は崩れていない。昔ながらの互助的な共同体は残っている。だから、考え方自体は保守的なんだ。

—では、プライベートなお話で、趣味にはまつていることはありますか？

最近面白そうだと思つているのは、妻の影響もあつて「お茶」だね。学生時代は茶道部に入つていたんだ。大学を卒業する時くらいに、友達と三人くらいでお茶会をやつた。上野の博物館でやつたんだけど、「あんな所で何でできたんだろ」と思うくらい。上野の博物館の中に茶室があるんですよ。今は重要文化財か何かになつてい

る。あの時は借りられたんです。たぶん2〜3万円くらいだったけど、一人1万か2万円ずつくらい出し合つて。今から思うと、すごい行動力があつた。お茶つて面白いのよ。例えば、お菓子をどうするか、花をどうい

るんだ。お茶が贅沢だと思ふ理由は、本と一緒に置く場所困ることなんだよ。柵も結構大きいじゃない。お茶はなかなか、奥が深い。

このあいだ、ウィーンでお茶会をやりたいから手伝つてくれって言われて、ウィーン大学の先生とか、何人かの先生を紹介してお茶会をやつたんですよ。その時にスロバキア大使がたまたま知り合いの知り合いでいたんだよ。その人がね、こういうかたちで出るんだつたら、スロバキアでできないかつて誘われて、去年の夏にスロバキアに行つてきたんですよ。10人くらいのお客さんね。10人くらいのお客さんね。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—高いですね！

お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

【写真・インタビューの様子】



—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

—お茶は高いんだよ。でも行きたいしね。自分でも茶道を一生懸命やるつもりはないのだけれども、あの茶会の雰囲気結構楽しいんだよ。もし人数がうまくまれば、学生の皆にも旅行のスタツプとして募集をしようかな。現地集合、現地解散になるけど。

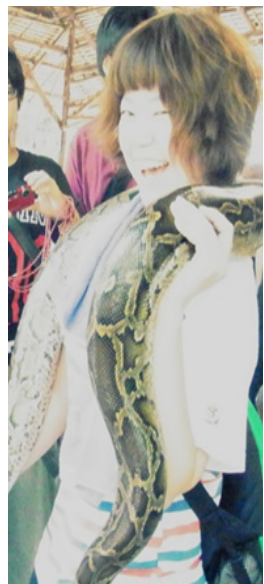
【6面から続き】

まったという寂しい気持ちと、活気にあふれた街を肌で感じる事ができた喜びが交差した。国の成長をリアルタイムで見ているのだと実感した。

ベトナムのバイクの波だったり、市場の活気だったり、香草のたくさん入った料理やアンコールワットの迫力、そして子どもたちの眩しいくらい笑顔……本当はこのことの感想をここに書くうと思っただがやっぱり書ききれないし、伝えきれない。自分で現地に足を運んで感じてほしい。おそらく自分でしか感じられないものがあるから。

自分がすごくちっぽけに思える

海外に行く自分という人間がすごくちっぽけ



【写真 鈴木さん】

に思える。でも、それと同時に世界って広い！と感ずる。だからもつといろいろな国を見てみたいと思ってしまう。本場の食べ物だったり、現地の人の温かさだったり、その



【右の写真 学生と子供たち】

みんな笑顔で「ハイ、ポーズ！」

の国の空気だったり……毎日足の裏を真っ黒にしながら地図を片手に歩く。インターネットやテレビでは感じられないものがたくさんある。たくさんパワーをもらって日本へ帰る。この体験ができた時、文化交流学科でよかったなと思う。

長期交換留学

〜韓国での1年間〜

昨年度、韓国の明知大学に長期留学に行っていた、2名の学生から感想を頂きました。留学をしようか悩んでいる方には、後押しになるかもしれません。

肌に合う感覚

文化交流学科4年次 前田瑠香

視野、価値観を広めたい

まず初めに私が交換留学に行こうと思った動機から話したいと思いま

す。私は大学2年になったところから1年間くらい留学に行きたいと漠然と考

え始めました。理由は「自分の持っている視野、価値観を広めたい」これ

だけですが、自分自身の心の豊かさを大学生活での4年間

でどう成長させられるかと考えた時に、大

学を卒業してしまっただけではなかなか体験のす

ま、英語が大の苦手。でもそんなことは気にせず、時間に共に気持ちも進んで行きました。

そして大学2年生の夏休み、まず短期留学に行

くことにしました。8月に短期留学で韓国に、9

月に文化交流体験でドイツに行きました。申し込みの時はスケジュールがきつすぎて心配な気持ち

で、日本から出たことのない私は、海外のことを知らなければという焦り

がありました。そして無事に韓国、ドイツから帰国した私はまず韓国とド

イツを比較することになります。ドイツから帰国した私の気持ちは決

まっています。「ドイツより韓国の方が楽しい！」私の気持ちは韓国にまっすぐに向いてい

ました。10月に学校が始まり、私はすぐにゼミの先生に話しに行きまし

た。先生は私の背中をグイグイと押してくれました。私は、迷いなく申し込

みを進ませ、気持ちを固めて行きました。

韓国への短期留学での3週間

次に、初めての海外、韓国への短期留学についてお話ししたいと思います。茨城キリスト教大学からの参加者は私を含め



【親友のハナさんと】

【写真中央 前田さん】



留学するにあたって、言葉がでないことで悩んでいる学生が多いと思います。私は出発当初はハンダールすらかけませんでしたが、現地に行っ

多くの人との出会い

て3人でした。韓国への短期留学は韓国の大学にある寮で3週間ほど生活するというものでした。そこで日本各地からの大学生たちと出会いました。そして現地の韓国人大学生との出会い、韓国に留学に来ているロシア、中国といった様々な国からの留学生たち、先生たちとの出会いがありました。このメンバーで3週間勉強をしたり、クラブ活動をしたり、ショッピングに行ったり、その中で韓国人の食文化だったり、感情表現の仕方だったり、時間の流れ方だったり……いろいろな事が私にフィットしつつも刺激的でした。

私には韓国が肌に合っていたのだと思います。そして気づくと韓国に戻ってきていた！（長期留学に行っていた）という感じです。そして1年、帰ってきてまず言える事は、留学をしてみたいと思った時から今日この日まで無駄な時間は1つも過ごさなかったということです。すべてが私の身になっていと思うています。私には、1年前とは違う広い視点で、色々な物が見えていと思っています。

かけがえのないもの

文化交流学科4年次 高橋 唯

一つ外に出てみると、すごく多くの人との出会いが待っています。今から留学を考えている、興味がある人には、自分に合った国、自分の

肌に合っている国がきっとあると思います。そんな国を見つけ出して、感じ取ってこれから留学に一步踏み出してほしいです。

きっかけは韓国ドラマ！

私が韓国に興味を持ち始めたのは、高校二年の

時でした。偶然見た、韓国ドラマがきっかけで、すぐに韓国語教室に通い、韓国語を学び始めました。韓国語の勉強を始めた当初は、韓国のドラマや音楽を、字幕なしで楽しむことができたらい

真っ先に力を貸してくれたのは韓国の友達

決して、毎日が充実していたとはいえません。

【左から2番目 高橋さん】



いという気持ちだけでしたが、勉強が楽しくなるにつれ、いつか韓国語を活かした仕事に就きたい、と思うようになりました。日本で、韓国語を学ぶことも大切ですが、やはり、直接現地に行き、韓国文化に触れながら韓国語を学ぶことが、語学を習得する上でも重要なことだと考え、韓国への長期留学を決めました。

一人で渡韓したその日から、朝から晩まで韓国語の生活が始まりました。語学堂での授業や、サークルを通して出会った友達、全てが私にとって、とても新鮮で、留学したからこそ得ることができた、かけがえのないものばかりです。

それから、私が留学した明知大学には、日本語学科があり、私は後期から、韓国の学生に日本語を教えるアシスタントを始めました。

貴重な体験

日本人である私と日本語で会話がしたいと積極的に話しかけてくれる学生が多く、本当に嬉しかったです。時には、緊張しながら覚えてたの日本語で、懸命に声をかけてくれる生徒もいました。



私が、韓国語で日本語を学生に教える仕事は、私にとっても貴重な体験となりました。

「就職」について考えよう！

キャリア支援センター
文化交流学科担当 藤田聡美

文化交流科のみなさん、こんにちは。キャリア支援センターでは就職指導や求人紹介はもちろん、1年生から4年間を通じた段階的なキャリアサポートを行っていますので、まだ来た事がない方は学年問わず是非遊びに来て下さいね。

「良い会社」がいいと思う方が多いのではないのでしょうか。

でも「良い会社」って果たしてどんな会社なのでしょう？ 誰もが名前を知っている会社ですか？ 公務員ですか？ 上場企業ですか？ 家から通える会社？ お給料がたかさんもらえる会社ですか？ 人によってそれぞれ「良い会社」の定義やそれに対する考え方は違いますよね。

さて、みなさんは大学卒業後の進路について就職や進学、留学など様々な進路を考えているかと思えます。その中でも「就職」について考えたとき、漠然とでも、就職するな

会社に入ってから定年を迎えるまで、働き続ける時間は約40年。女性は出産・育児などのライフイベントを挟みますが、想像しているよりもずっとずっと長い年月です。

社会人になれば1日の約3分の1、人生の大部分を「仕事」が占めることになります。



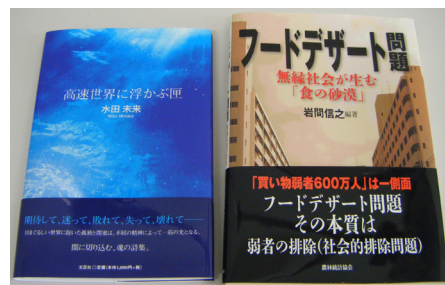
大切なのはどの会社に入るかではなく、そこでどんな仕事をしたのか、どんな人と働きたいのか、どんな人生を送りたいかということ。会社の知名度や、イメージではなく、自分自身がどう人生を送りたいか、なれぞれの人生を考えてみませんか？

キャリア支援センターでもみなさんのキャリアを共に考えるお手伝いをしますので気軽にご利用ください。

rongorongo 編集部員募集！

<話題の一品>

「フードデザート問題」
「高速世界に浮かぶ匣」



生活科学部を卒業された水田未来さんが『高速世界に浮かぶ匣』（文芸社）という詩集を出版されました。

文化交流学科の岩間先生は、『フードデザート問題』（農林統計協会）を出版されました。

どちらも図書館においてあります。ぜひ読んでみてください。

編集後記

みなさんはじめまして。今から編集部に入りました大砂です。初めてのことが多くまだまだ私ですが見守ってください。よろしくお願ひします。

初めまして。新しく編集部に入りました遠藤緑子です。まだまだ未熟な部分もありますが、宜しくお願ひします。

ぜひ楽しく読んでいただければ幸いです。「遠藤緑子」

自分達を中心となって、初めての発行になります。色の組み合わせや、写真の配置など……いやあ、難しかった！ また、今年は学生最後の年です。夏休みは何をしようかと、今からわくわくしています。「中根梨紗」

これまでrongorongoは年4回、8ページ立てで発行してきましたが、4月号の編集がほぼ完成した時点で大震災に襲われました。そこで、今号は4月、7月号の合併号とし、12ページで発行することにしました。次号発行は10月の予定です。「藤田悟」

- ロングロンゴ編集部は4年生2人、2年生2人の計4名で藤田先生ご指導のもと活動しています。
 - デザインに興味がある
 - 新聞を毎日読んでいる
 - 文章書くのが好き
 - たくさんの人と出会いたい
 - ものづくりの達成感を味わいたい
 - 学生生活で何か残したい
 - 毎日暇している
 - 文化交流学科が大好き
- 一つでも当てはまる方はぜひロングロンゴ編集部へ！

ロングロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のよなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていないそうだが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。